

平成29年度スポーツ庁委託事業
学校における子供の体力向上課題対策プロジェクト
成果報告書

NPO 法人幼児教育従事者研究開発機構

学校における子供の体力向上課題対策プロジェクト事業成果

—アスリート先生の小学校体育指導支援がもたらす、学校における子供の体力向上効果について—

要旨

子どもの体力は一時期の低水準から戻りつつある一方で、運動をよくする子どもとしない子ども、運動嫌いなどのつまずきを感じている子ども等、運動習慣の二極化が進んでいる。こうした課題の解決に向け、アスリート先生（体育専門指導者）を小学校に配置することでもたらされる効果を調査検討することを目的とした。

〈調査の背景〉

小学校の体育指導においては、科目別専門指導でないため、体育指導を得意とする教員とそうでない教員に分かれることが推測される。また、教員の高齢化も体育指導の充実を均一に保つことが困難な要因のひとつと思われる。ついては、こうした背景が運動の好きな児童とそうでない児童の二極化、つまずきが生じる要因でないかと考える。

こうした課題の解決に向け、従来の体育授業の改善提案として、体育専任指導者（アスリート先生）を小学校に定期的に配置、派遣することで運動嫌い、つまずきを解消し、児童の運動への興味、関心を高め、日常的に運動することの定着という好循環がもたらされるかを調査することとした。

〈取組み内容〉

本事業の取組みとして、元トップアスリート等（国体等の大会出場経験者又は、同等の大会出場経験者で大学、大学院等で体育を専門に学んだ者）を体育専任先生（アスリート先生）として、指定小学校において週に1回の頻度で1名派遣した。アスリート先生は、学校、教員等と適切な連携を図りながら体育の授業を指導、サポートする他、休み時間、放課後等に児童の運動活動を支援した。

事業モデル小学校に選定された中野区立新井小学校（児童数 421 名内男子 235 名/女子 186 名）において、平成 29 年 6 月 15 日～平成 30 年 2 月 23 日までの期間、計 30 回派遣（配置）し、実施した。

〈アスリート先生実践方法〉

①理想的には、週1回の実施としていたが、当該小学校の年間行事日程等との折り合いをつけやすくするため、全学年クラスの指導受益頻度が平均になるよう等の配慮から月に4回の実施となった。

②派遣するアスリート先生は、実施モデル小学校の教員、職員との連携の重要性、児童との関係作り等を鑑みて、水泳授業以外は、期間中、同一アスリートとした。

夏季、水泳授業期間中は、水泳元トップアスリート等を派遣（配置）した。

③派遣指導日は、学期ごと学期初めに校長、体育主任、アスリートの3者で決定した。

④アスリート先生は、派遣日に通常の教員と同様の時間（午前8時）に出勤し、16時30分までの勤務とした。

⑤授業の進め方については、年間指導計画に沿い、体育主任教諭、担任教諭と連携を図りながら、アスリート先生がT2として指導した。

⑥期間中、給食時間は、各学年クラスで児童達と給食を共にすることに努め、授業、業間活動外においても児童達とのコミュニケーションを図ることとした。

<事業目標・調査ポイント>

達成目標低学年

- ・運動が好きと答える児童の増加（体育活動への意欲を高める）
- ・運動活動の習慣的な定着。
- ・低学年時に身に付けさせたい基礎体力、運動能力（特に握力、投力）の向上。

達成目標高学年

- ・運動嫌い等のつまずきの解消。
- ・積極的にスポーツに取り組む態度の育成。
- ・運動活動の日常的な定着。
- ・特に、6年生女子については、スポーツへの愛着心を高めることで、中学入学後、運動部での活動に繋げる意欲を涵養する。
- ・運動能力数値の向上と体力の向上。

学校教職員に対する調査ポイント

- ・教員の体育指導における意識の向上と変化。
- ・アスリート先生の学校配置における評価感想。

<アスリート先生事業効果の検証、評価方法>

調査票の実施

実施時期：1回目実施7月10日～7月20日/2回目実施2月10日～2月20日

①新井小学校全児童を対象に本事業運営委員会の有識者によって構成された調査票を実践初めと後に計2回実施した。調査票の設問内容は、年齢的な理解度等を考慮し1, 2, 3年生（低学年用）と4, 5, 6, 年（高学年用）の2種類に分けて実施した。

②調査票の実施は、低学年、高学年共に家庭に持ち帰り、回答してもらい後日回収。

③前後2回の調査票結果から体育活動への意欲、満足度、意識の変容を分析した。

④実践校における効果の達成度を比較検証するため、統制群小学校として中野区立桃園小学校全児童385名（男子184名/女子201名）に同様の調査票のみ実施してもらい、新井小学校と同時期、同条件で実施した。

調査票設問内容

低学年（1, 2, 3 年用）調査票の設問は、1 回目 2 回目共に同様の内容を実施した。

- ・運動に対する愛着、日常の生活習慣を問う設問等 10 問。（5 択肢から 1 つ選択）
- ・運動に対する意欲等の心理的な側面を問う設問 16 問。（5 択肢から 1 つ選択）
- ・運動有能感、運動を通じた自己肯定感等を問う設問 12 問。（5 択肢から 1 つ選択）

高学年（4, 5, 6 年用）1 回目

- ・運動に対する意欲、日常の生活習慣を問う設問等 11 問。（5 択肢から 1 つ選択）
- ・日常的な運動活動、体験、習慣を問う設問 2 問。（記述式）
- ・運動に対する愛着、興味等の感情的価値、認知的価値等の心理的側面を問う設問 16 問。
（5 択肢から 1 つ選択）
- ・運動に対する満足度、運動を通じた自己肯定感、運動有能感、意欲等の運動動機（内発的調整、外発的調整、実用志向）等を問う設問 12 問。（5 択肢から 1 つ選択）
- ・自尊心感情、自己肯定感を測る設問 10 問。（4 択肢から 1 つ選択）
- ・神経性傾向等の 心理的側面を問う設問 30 問。（5 択肢から 1 つ選択）
- ・対人関係能力を測る設問 15 問。（3 択肢から 1 つ選択）
- ・社会能力、基本的欲求（友達との関係性、自立性要求）を測る設問 24 問。（5 択肢から 1 つ選択）

高学年（4, 5, 6 年用）2 回目

- ・運動に対する意欲、日常の生活習慣を問う設問等 11 問。（5 択肢から 1 つ選択）
- ・運動に対する愛着、興味等の感情的価値、認知的価値等の心理的側面を問う設問 16 問。
（5 択肢から 1 つ選択）
- ・運動に対する満足度、運動を通じた自己肯定感、運動有能感、意欲等の運動動機（内発的調整、外発的調整、実用志向）等を問う設問 12 問。（5 択肢から 1 つ選択）
- ・自尊心感情、自己肯定感を測る設問 10 問。（4 択肢から 1 つ選択）
- ・社会能力、神経性傾向等の心理的側面を問う設問 30 問。（5 択肢から 1 つ選択）
- ・対人関係能力を測る設問 15 問。（3 択肢から 1 つ選択）
- ・社会能力、基本的欲求（友達との関係性、自立性要求）、を測る設問 24 問。（5 択肢から 1 つ選択）
- ・自己管理能力、自己肯定感を測る設問 21 問。（5 択肢から 1 つ選択）

運動能力測定の実施（新井小学校 2 月 9 日実施/桃園小学校 2 月 8 日実施）

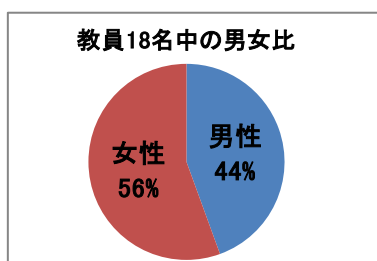
実践終了期に運動能力測定 3 種（50m 走、ソフトボール投げ、立ち幅跳び）を新井小学校と統制群校（桃園小学校）全児童を対象に実施し、1 学期に行われた新体力測定の数値と比較、事業モデル校と統制群校の数値を比較し、事業の効果を検証した。

教員を対象に調査票を実施

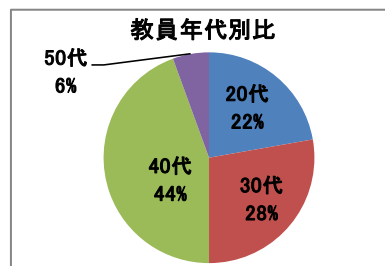
本事業課程終了後に桃園小学校全学年全クラス担任（16名）と校長、副校長を対象に調査票を実施した。設問は、アスリート先生（体育専任教諭）の小学校配置についての感想、評価等を問う設問、体育授業に対する教員自身の変容等についての設問8問（5択肢から1つ選択）に合せ、自由記述で回答してもらった。

〈アスリート先生の小学校配置に関する教員対象調査票結果〉

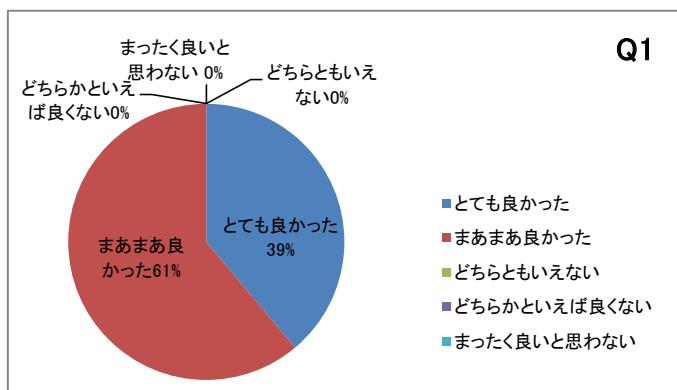
新井小学校調査対象教員の男女比



教員の年齢比について



Q1. アスリート先生の取組みについて



本実践について、すべての教員から「とても良かった」、「まあまあ良かった」との評価を得た。Q1の回答から、Q2では、良かったと思われる点と改善すべき点を自由記述で回答を求めた。

良かった点について

- ・専門の方に走り方を教えてもらえるのは子供達の意欲、技術の向上につながった。（2年担任）
- ・アスリート先生は音を使ったり、実際に走ってくれたり、子供達はわくわくしながら、運動に取り組んでいた。（2年担任）
- ・陸上のスキル等、専門知識の伝達が子供達にとっても指導者側にとっても新鮮な視点が得られた。（3年担任）
- ・2人体制の指導、アスリート先生による授業事前準備で授業の充実が図れた。（5年担任）

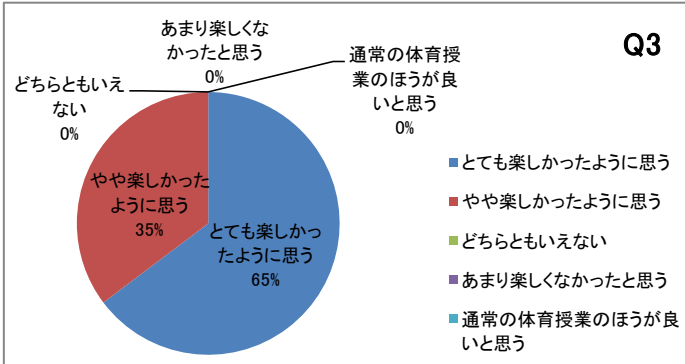
- ・ 実際のアスリートの方に教えてもらえることに子供達はうれしそうだった。(6年担任)
- ・ 運動好きの児童が増えたように感じます。(5,6年支援学級担任)
- ・ アスリート先生がいるだけでいつもより気合が入って運動が出来た。(3,4年支援学級担任)
- ・ 児童の運動に対する関心、意欲が高まった。(1年担任)
- ・ 子供達にわかりやすくコツを教えてくれるところ。(1年担任)
- ・ 本物の試技見せられたことにより、子供達の意欲がとても上ったと思います。(4年担任)
- ・ 専門的な知識をご指導いただき、運動の特性や行い方が理解できた。(4年担任)
- ・ 専門的な技術、知識が教員の刺激となり大変良かった。(副校長)
- ・ 子供達が1時間(45分)の中で運動量が増えた。(副校長)
- ・ 保護者へ体力向上のアピールが出来た。(校長)

改善すべき点

- ・ 単元により適切な指導ができない所もあるので陸上、器械、水泳、ボール運動の4つは各専門のアスリート先生の方がより良いと思う。(4年担任)
- ・ 教えて頂いたことが専門的なことであったため、指導要領との差があると思った。したがって各学年にあった内容であると更に良いと感じた。(2年担任)
- ・ 時間割の変更や打合せがあまりできない等の不便があった。(3年担任)
- ・ 行事が重なる5年生でアスリート先生の時間のしぼりができてしまった。(5年担任)
- ・ 運動技能の向上にはとても有効だが、協力し合う、学び合う、皆で運動を楽しむ授業を展開しにくくなる。(6年担任)
- ・ 打合せの時間をどのようにとるかが課題であると思う。(校長)

上記の結果から、アスリート先生が子ども達に技術の見本を示すことで、運動への意欲が高まり、技術の向上へ繋がる効果があったとの感想が多くみられた。一方で、少数ではあるが担任教員との事前打合せ時間を確保するのが難しかったという意見もあった。また、専門領域ごとに異なるアスリートに指導して欲しいという意見もあったが、異なるアスリートの派遣については、担任とのコミュニケーションが希薄になることが懸念されることから、理想的には、全ての運動領域について専門的に指導できるアスリートが理想であると考えられる。

Q3. 児童は、アスリート先生の授業を通常の体育授業より楽しそうでしたか？

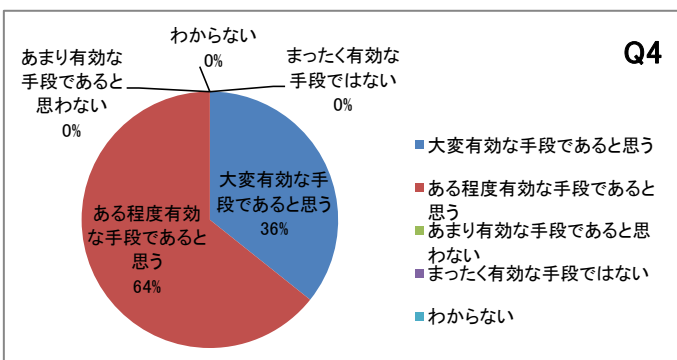


本実践では、すべての教員が「とても楽しそうに思う」、「やや楽しそうに思う」と答えた。

好意的な評価は、Q2の良かった点の自由回答に示されている。アスリート先生が高い技術の見本を見せることで、通常の体育授業ではできない演出が可能となり、体育への興味、関心を高めることに繋がるのが推測される。

特に支援学級においては、教員からの評価が高く、アスリート先生から走り方の具体的なアドバイスを受けて子供達は楽しく運動ができていた、子供達の憧れの存在となっていた等の感想が複数あった。可能であればアスリート先生の授業頻度を増やして欲しいという意見もみられた。

Q4. アスリート先生による指導は、児童が運動を楽しむという意識の向上に有効な手段であると思いますか？



Q4の質問については、すべての教員が「大変有効な手段」、「ある程度有効な手段」と答えた。

Q4の回答からその理由を自由記述で求めた。

大変有効な手段、ある程度有効な手段であると回答した理由について自由記述から

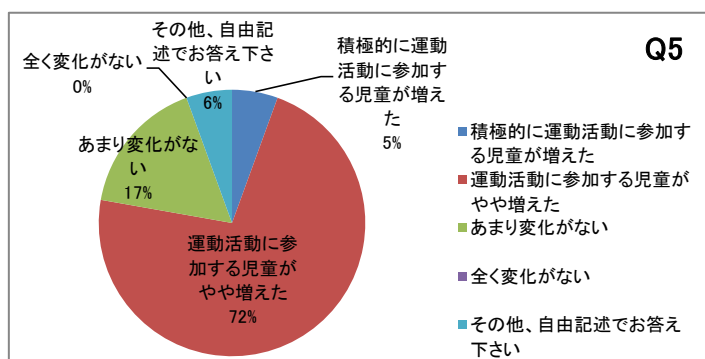
- ・スキルを言葉だけでなく実践の中で触れることができるのが大きい。(3年担任)
- ・担任ではないスポーツを専門にしている方の指導は日常とは違うので子供達が意欲的になるきっかけになると思う。(5年担任)
- ・アスリート先生による良いお手本、高い技術の見本を間近で見れることで子供達の「やって

みたい」という意欲が高まった。(5,6年支援学級担任)

- ・高い運動能力を実際に見て、児童はアスリート先生に憧れの念を持ち、その先生からの指導が意欲を高めていたと感じた。(3,4年支援学級担任)
- ・教員(特に担任)の指導の幅が技術や知識で広がっていた。子供達にとっても新しい動きで興味関心も高まっていた。(副校長)
- ・常に身近にいてポイントを指導してくれることで技術の向上と共に意欲も高まる。(校長)

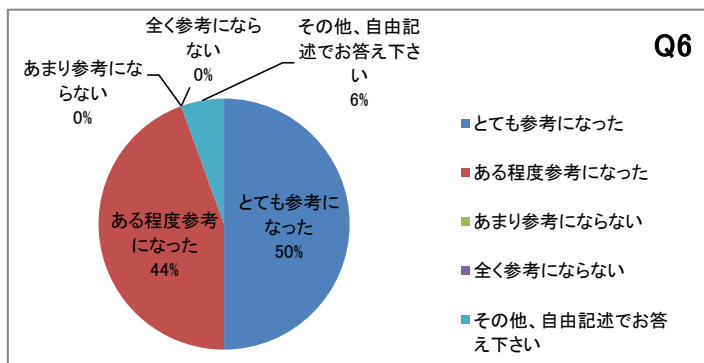
上記のような回答から体育授業には、高い技術の良い手本を見せる指導は、子供達にとってなにより有効な手段、教科書であることが伺える。運動への関心、意欲を高める重要な要素であることが示されている。

Q5. アスリート先生の導入によって児童の日常的な体育活動に変化がみられましたか？



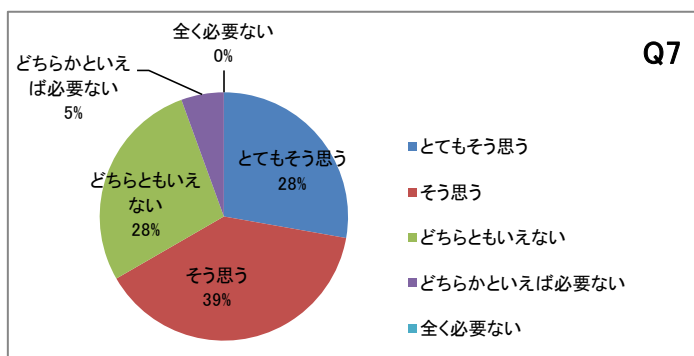
7割以上の教員が「増えた」、「やや増えた」と回答する一方、あまり変化を感じないとする回答が2割弱あった。「休み時間や業間運動に校庭で鬼ごっこや走る遊びをする児童が増えた」、「アスリート先生の実践によって校内に陸上クラブが発足するきっかけとなった」という現象も起きており、学校全体の運動に対するモチベーションの向上等、好循環の創出がもたらされたことが推察される。また、アスリート先生は、体育授業だけでなく運動会の参加、陸上記録会に向けた特別練習等においても積極的にかかわることで、学校全体の体育活動の向上に向けた取組みが可能となった。

Q 6. アスリート先生による体育指導は、ご自身の体育指導の参考になりましたか？



Q 6の質問には、全ての教員が「とても参考になった」、「ある程度参考になった」と答えた。こうした結果は、体育指導は、音楽や英語等の授業と同様、専門性の高い科目であると推測される。定期的、習慣的な体育専門の先生による授業の実施は、子ども達のみならず、体育指導を不得手とする教員にとっても有効なことであると思われる。

Q 7. 小学校における体育専任先生（アスリート先生）は、今後、必要である。



本回答には、6割以上の教員が「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した。

「必要である」と回答のあった自由記述から

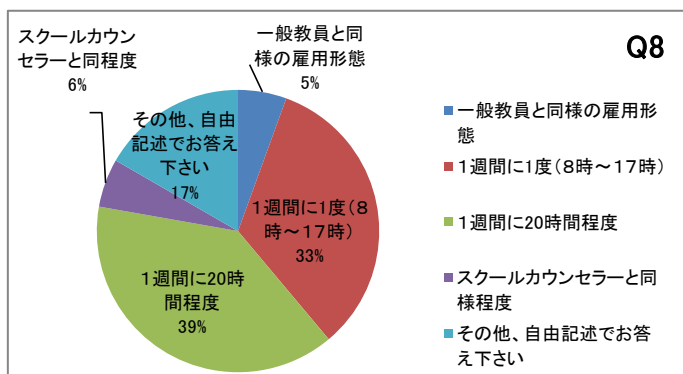
- ・ 体力向上を目指すときに専門的なアドバイスと共に子供達の身近で技能や意欲を高められる存在は、とても有効であると思われる。(校長)
- ・ 体育に関しては、得手、不得手があるため、その指導方法を学ぶという点も含めて、専門性のある方の授業の参加は互惠性のある取組みであると思う。(副校長)
- ・ アスリート先生というより体育講師という存在がそもそも助かる。(5年担任)
- ・ 専門的なアドバイス、お手本を見せられるので子供達の意欲の向上や技能面の到達において有効だから。(4年担任)
- ・ 今後、どの教科にも外部から専門の教師を入れていくことは有効であると考えます。

- ・専門性が益々望まれる教育現場の現状から専門人材は必要不可欠である（3年担任）
- ・打合せをしっかりと行うことで授業内の役割分担が可能となり、その結果、児童の運動意欲が向上しました。（5,6年支援学級担任）
- ・「アスリート先生と走りたい、〇〇してみたい」という児童が多く、アスリート先生とかかわることで体をよく動かしていた。今後も是非、お願いしたい。（5,6年支援学級担任）

「どちらともいえない」「どちらかといえば必要ない」と回答のあった自由記述から

- ・運動会に向けて、目標に向けたこと等に関する指導を期間限定が良い。（2年担任）
- ・アスリート先生による授業があっても良いと思うが、学校の職員として配置することが良いかはわからない。（5年担任）
- ・子供達の運動への意識の向上や準備等の面をみると必要だと思うが、担任自身の指導力をあげるべきという観点で複合的にみるとどちらともいえない。（2年担任）
- ・回数が定められていたことから、全学級が定期的に指導できなかつたので単元内で3時間は連続で関わると良いと思った。（4年担任）

Q8. 小学校における体育専任教諭の雇用が体制化した場合、良いと思われる指導頻度について、お答え下さい。



「1週間に20時間程度」の頻度という回答が一番多く、次いで、「1週間に1度(8時～17時)」であった。理由について、自由記述で回答してもらった。

「一般教員と同様の雇用形態」の選択の理由として、

- ・ある程度いてくれないと打合せができないため。（5年担任）

その他、自由記述での回答から

- ・週に1回等という形態では、指導事体し辛くなる。（2年担任）
- ・期間限定、アスリート先生が専門となる分野を指導する期間。（1年担任）
- ・全クラス1週間の1回入って欲しいので週3日は来てほしい。（5,6年支援学級担任）

—平成29年度 アスリート先生による体力向上についての感想—

新井小学校体育主任 樋口 陽介

今年度、「アスリート先生」による体力向上事業を行い、主に、陸上運動（かけっこ、リレー、高跳び、幅跳び）、ゲーム・ボール運動（ゴール型）のT2として授業に配置された。成果と課題については、以下の通りである。

◆成果

- ・子供の運動に対する苦手意識が減った。
- ・運動が好きになった児童が増えた。
- ・ボール投げの仕方がわかった・
- ・休み時間に鬼ごっこ等の走る遊びが増えた。
- ・クラブ活動に「陸上クラブ」を発足したいという声が出た。
- ・ゴール型の運動でパスを通す確率が増えた。
- ・1日の終わりに次時の打合せができ、スムーズに授業が行えた。

◆課題

- ・各学級に入る日が少ないため、1単元あたり1回～2回しか一緒にできない。1単元もう数日入れると更に体力の向上を促せた。
- ・陸上・ボール投げ以外でも活用出来れば良かった。

以上のことから、児童一人一人の意識の向上はみられた。中嶋先生自身、子供の活動に積極的に介入し、的確な指導をしていただいた結果である。また、年間、中嶋先生が来て下さることで児童との関係は深まり、授業での指導も十分な成果を得られた。そして、担任だけでは見取れない場面も中嶋先生にサポートしていただいたことが何より大きかった。

昨年度の反省から職員との打合せを密に行った。その結果、中嶋先生と担任が混乱なく授業を行えたが、雨天時の対応が不十分であった。雨天時を見越して体育館での体育の打合せまで行えると良かった。

今後、アスリート先生の年間回数をもっと増やすと更に、児童の体力向上に繋がると感じた。

<考察>

実践小学校の教員の評価から、アスリート先生による年間を通した体育授業は、高い評価を得たと思われる。特に、実技面で、お手本として児童に見せることによる効果は高いと判断する教員は多かった。また、教員自身も指導面において、全ての教員が参考になったと回答している。また、アスリート先生の介入によって学校全体の運動に対するモチベーションが上がり、保護者に対して体力向上の良いアピールが可能となった。以上のことから、アスリート先生の役割に一定の以上の評価を得たと思われる。本アンケートの回答から、指導頻度等について慎重に検討する必要があるが、本事業を通して、小学校における体育授業の改善、授業の充実の有効な取り組みであると、ほぼすべての教員が実感していたことが伺える。

—アスリート先生としての感想—

アスリート先生 中嶋 俊文

アスリート先生としての活動を振り返ると、9ヶ月間という期間がありましたので、子供たちには走り方、跳び方、投げ方などのお手本をたくさんみせることが出来たと感じています。子供にとっては運動を真似することが上達の近道になるので、アスリートが子供たちの目の前でお手本を何度も示す機会があることは、他の学校にはないポイントだと思います。

授業前準備は事前に担任の先生方との打ち合わせを確実にし、グラウンドに子供たちが出てきたらすぐに授業を始められる環境作りをしました。先生方の授業準備の負担が減り、授業時間も確保しやすかったのではないかと思います。また、アスリート先生としての活動が終わった後も、走り方など専門的指導のノウハウが学校に残ることにも大きな意味があると思います。活動期間中に子供の運動能力が向上したのかどうか詳しくは分かりませんが、陸上を始めてみたいという子供がいたことや、運動が好きになったという子供がいたことは今回大きな成果だったと思います。

<さいごに>

約1年間にわたるアスリート先生の実践では、事業目標課題に一定以上の成果を挙げることができたと実感している。アスリート先生による体育授業の介入は、高い技術のお手本を子ども達に披露することで従来の授業にはない演出が可能となった。また、校内における運動活動が活発になったこと等が運動能力数値の向上に繋がったものと考えます。あらためて、子どもにとって体育は視覚から学ぶ要素が極めて高いことも実感した。本事業は、学校関係者からの要望も高いことから、今後さらに、本事業の実施と改善等を重ねて効果を検証し、その成果を全国に向けて発信、周知することが必要であると考えます。

指導の様子



中嶋俊文先生の紹介



3年生授業



2年生授業



ハンドボール授業



6年生授業



水泳授業（夏季）



前田康輔先生（水泳）



新井小学校